

伏流水 | JCP の人材養成「装こう技術者 中村春佳さんへのインタビュー」
特集 | 人材活用による社会への貢献～国境なき医師団取材して

特定非営利活動法人
文化財保存支援機構
季刊誌



NPO JCP NEWS

30

2015.11.1

平成 27 年度文化財保存修復専門家養成実践セミナー会場 黒田記念館



JCP の平成 27 年度定例総会は、6 月 20 日（土）、東京下谷のイベント会場を借りて行われました。今回は 2 部構成で、前半を運営に関する審議にあて、後半は大林副理事長と鈴木晴彦会員による事例報告が行われました。当日は例年になく多くの会員が来場くださり、賑やかな会合となりました。

今回は九州支部の設立が報告されるなど、新たな動きもありました。皆様の大切な会費に支えられて運営されている組織です。一人でも多くの方にご来場いただき、活動内容を知っていただきたいと思います。



開催日時：平成 27 年 6 月 20 日（土）13：30～16：00
会 場：SOOO dramatic!

（〒110-0004 東京都台東区下谷 1-11-15）

出席者：理事（維持会員*）7 名（内委任状 2 名）、維持会員* 7 名（内委任状 5 名）、事務局 4 名（内維持会員* 1 名） *維持会員：議決権を持つ会員

議事次第

維持会員 15 名中、委任状を含む全員が出席。定款 25 条に基き、総会は成立。次に三輪理事長が議長に選出された。

議案 1. 平成 26 年度決算報告／事業報告

平成 26 年度決算報告は、下記のとおり。

【収入】

・一般会計収入計 （会費、寄附等）	¥ 6,624,954
・事業収入計 （事業内容については、別紙事業報告をご参照下さい）	¥ 85,104,421
当期収入計	¥ 91,729,375

【支出】

・一般会計支出計 （家賃、人件費、旅費、通信費、消耗品費等）	¥ 17,793,789
・事業支出計	¥ 71,579,918
当期支出計	¥ 89,373,707

当期収支差額	¥ 2,355,668
--------	-------------

※なお、震災寄付金特別会計については、平成 26 年度は個人と募金箱に合計 66,222 円のご寄付をいただきました。前年度繰越金と合わせ、3 月 31 日現在 **641,710 円** の残高となっております。今後茨城県常総市の水損資料対応など、有効に使わせていただきます。

議案 2. 2015 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良

2015 年 8 月 27 日～29 日にかけて開催される標記シンポジウムについて、本部事務局が支援することが決定した。

議案 3. 新役員について

九州支部を設立するに当たり、支部長として九州国立博物館特任研究員 本田光子先生が推挙され、同時に JCP の理事として推薦され、全会一致で承認された。

また、従来の理事 7 名も任期満了を迎えるため、継続就任が諮られ、満場一致で承認された。

評議員については、田邊三郎助先生の重任が承認された。

議案 4. 平成 27 年度事業計画

＜東京本部＞

- ・文化財保存修復専門家養成実践セミナーレベル I（7/27～8/2）・II（8/29～9/8）
- ・東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良の支援（開催済み）
- ・東日本大震災被災文化財救援事業
→民具の実測図作成、書、水彩画油彩画の安定化処理を受託
- ・世界遺産スタディツアー（企画中）
- ・ニュースレター発行
- ・芸工展への参加 など
- ・文化財保存修復学会事務局運営協力

＜関西支部＞

- ・田川市山本作兵衛コレクションのデジタル制作（前年度より継続）
- ・京都府庁行政文書修復支援（前年度より継続）
- ・阿波の和盆製造用具調査
- ・筆の里（広島県）熊野筆コレクションのラベル剥がし（実施済み）

議案 5. 会員の動向

平成 26 年度は 35 件の新入会者があった。会費滞納による退会処理予備者もほぼ同数おり、全体としては微増の傾向が続いている。以上

新理事紹介—本田光子理事



この度、理事を仰せつかりました本田光子と申します。

今、九州各地では、特に博物館・美術館を中心に防災・減災や IPM 等文化財の危機管理ネットワーク構築の機運が高まっています。こうした流れの中、行政と社寺や民間企業そして市民の隙間を埋めつつ文化財保護活動を推進する体制を積極的に支援する応援団が望まれています。JCP 九州支部の活動が期待される所以です。こうした活動の基礎作りの一例となれるよう取り組みたく存じます。しかしながら、私は設立後間もない JCP に入会し会員歴は長いものの、これまでは、メールマガジンやニュースレターを楽しみにしている一般会員の一人でした。JCP の活動への積極的な参加経験もなく、もとより微力でございます。今後は、関係各位の皆様のご指導ご鞭撻を賜り、少しずつ進めてまいりたく存じます。何卒ご支援ご協力くださいますよう切にお願い申し上げます。

本田光子先生

独立行政法人国立文化財機構
九州国立博物館特任研究員

- ・東京藝術大学大学院美術研究科保存科学専攻修士課程修了
- ・九州歴史博物館、福岡市埋蔵文化財センター、
別府大学文学部文化財学科教授を経て
- ・2003 年 九州国立博物館準備室
- ・2005 年 九州国立博物館学芸部博物館科学課長
- ・2011 年～現職

報告 2

芸工展 2015 参加企画「修復のお仕事展 '15 ～伝えるもの・想い～」に参加しました

絵画・考古・染織・陶磁器などの保存修復に携わる技術者たちが自身の仕事ぶりを紹介する「修復のお仕事展」が開催されました。期間中は 552 名のお客様が来場されたということで、大変盛況でした。JCP は東日本大震災被災文化財救援事業を事例とした「人材活用」についてのポスター発表を行いました。

会 場：旧・平櫛田中邸アトリエ（台東区上野桜木）

会 期：10 月 11 日（日）～ 18 日（日）



装こう技術者 中村春佳さんにインタビューしました

NPO 法人 JCP は、創設以来毎年様々な情報やイベントを世に提供してきました。今回の伏流水では、JCP 主催の「文化財保存修復専門家養成実践セミナー（以下、セミナー）」に参加した卒業生から、その後を話していただく機会として、セミナーの第一期生で、紙資料や東洋絵画等の装こう分野において修理技術者として現在活躍されている、中村春佳さんにお話を伺うことができました。本稿では、中村さんが修理技術者を志して就職活動等を経て現在に至るまでの経緯や JCP 事業との関わり等をご紹介します。

まずは、装こう分野の修理技術者を目指された経緯を伺えますか？

——当時は、日本画の制作をする学部で学んでいました。自ら創作することを好んで選んだのですが、作家としてやっていく自信がなく、学部3年生の頃は進路についてとても悩んでいました。そんなときに図書館でたまたま「お仕事は文化財」という本が目に入りました。それは文化財の保護事業に携わる人々のインタビューを集めたもので、その内の掛軸を修理する方の記事を読んだ瞬間に、これだ！と思いました。そして日本画制作から、掛軸等の修理を行う装こう分野の修理技術者の道を目指すことに決めました。

その後の就職活動はいかがでしたか？

——それからは、なんとしてでも修理業界に携わるつもり

で就職活動を始めました。当時は採用情報を自分で得ることが難しかったので、知り合いから情報を集めて装こう分野の文化財修理会社の採用試験を受けました。しかしそこでは結果が得られなかったのですが、学部卒業後は情報と人脈を得る目的で大学院に入りました。学内カリキュラムは古典絵画の模写制作がメインでしたが、その傍らで常に修理業界を志望している事を周囲に相談していました。そうしたら、大学院の先生方が博物館等での修理に関連したアルバイトや JCP のセミナーを紹介してくれました。

しかしそれ以後も、私の場合はなかなか結果が出ませんでした。大学院卒業時とその後毎年修理会社を数社受けましたがうまくいかず、悩んだ挙句に海外の美術館で働くことも考え、関係者に相談したこともありました。その間も、



中村春佳さん プロフィール

- 東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻保存修復日本画研究室 修士課程修了
- 2014年 株式会社 修護 入社
現在に至る

大学院の先生やセミナーで知り合った方からアルバイトを紹介してもらったり、JCPの東北レスキュー事業や他機関の被災文化財レスキュープロジェクトにも参加したりしました。当時は装こうに限らず文化財に関係する仕事は何でもしましたが、それだけでは生活できないので、一般企業で事務のアルバイトをしていました。

その後、やっと紙資料修理会社に入社しました。そこで約2年働きましたが、どうしても装こう分野の修理の道を諦められずに退職して、現在所属している会社の門を叩きました。ここも最初は断られましたが、奇跡的にタイミングが合い、最初はアルバイトとして働き、しばらくしたのち社員として採用してもらいました。

学部卒業の頃と比較して、多様な経験を経て、素晴らしい人間関係を形成された事は大切な変化ですね。それ以外でご自身が感じる変化はありますか？

——私はもともと日本画の制作を経て掛軸修理から興味を持った人間なので、装こう分野の修理を念頭に就職活動を開始しました。けれども、それ以外の仕事や経験を経て多様な専門分野に触れた事で、1つの事を多角的に考えるように視野が広がったと思います。また疑問は出来るだけ放置せず、自ら情報を集めて考えるようになりました。特に以前働いていた紙資料修理会社では、社員自ら国内外の新旧の情報や文献を集めて調べていましたので、そこでの経験が現在とても役立っています。

全ての経験に対して丁寧に向き合ってきたからこそ、様々な技術や知識が蓄えられているのだと推察します。何事にも大切な姿勢と考えます。

では次に、改めて JCP の事業への参加について伺いたいと思います。セミナー等、これまでどのようなものに参加されましたか？

——セミナーは、修士の時にレベル 1 の A・B とレベル 2 の A を受けました。レベル 1 は現在とあまり変わらない内容ですが、様々な分野の第一線で活躍する先生方から基礎的な講義を受けました。レベル 2 は古民家にある文書の悉皆調査でした。ここでは修理技術者の指導のもと、床下から埃まみれの古文書を取り出し、整理をしました。またセミナー以外ですと、大学院卒業後に JCP が携わる東北の文化財レスキュー事業にも参加しました。3 ヶ月の間で 1 週間滞在を 3 回行い、主に掛軸の解体から脱塩処置まで行いました。

セミナーと東北レスキュー事業に参加されてみて、いかがでしたか？

——それぞれの参加者は、同年代の学生や既に働いている技術者の方など、様々でした。そこで色々な分野の人と出会えたこと、文化財に関係する多種多様な職業の存在を知ったことは、自分の進路や保存修理それ自体を考えるための視野を広げてくれたと思います。セミナーやレスキュー事

業に参加した後も、お互いに就職情報の交換をしたり、紙漉きの現場見学等のイベントに誘ってもらったりしていました。そこで関係を築いた中には、未だに仲良くしている人もいます。

JCP が少しでもお役に立てていることを聞いて嬉しいです。そのセミナーを受講して、何か要望などはありますか？

——セミナーは今受けたいです。ある程度知識がついた状態である今なら、技術者同士で情報交換もしやすいですよ。色々な分野の先生方に教わっているのに、私は学生だったからですが、本当に基本的な知識を触るだけで、それに実感を伴えなかったのが悔しく感じます。でも 10 日間通しは参加が難しいので、3 ヶ月間に週 1 回程度で開催して頂けると嬉しいです。

貴重なご意見ありがとうございます。最後に今後の展望を伺えますか？

——目指していた仕事にやっと携われたので、今やっている事に一生懸命取り組んで、先輩方の技術を出来るだけ多く吸収することが当面の目標です。技術が磨かれてきたら、今度は自分がそれを後輩に引継ぎ、また都市圏以外や海外など装こう分野の情報が少ない地域に保存修理技術を普及できれば良いな、と今はゆるやかに考えています。

志した道を諦めずに進む姿勢に、非常に刺激をうけました。本日はありがとうございました。



お道具拝見

右から

① 握り鋏 紙や糸を切ったり、裂に切り込みを入れたり、様々な用途に使います。刃先が手元に近いので、洋ハサミよりも力が入れやすくコントロールがしやすいです。

② 切り出し小刀 掛軸の軸棒や屏風の地下など、木材を加工する際に使用します。

③ 印刀 紙を切ったり、削ったりするときに使用します。

④ 丸包丁 紙を切る為のものです。自分で研いで手入れをします。カバールはバイト先をやめる時に、職場の方から手作りのものをいただきました。

⑤ 尺差し 装こうの分野では尺寸法で書かれた物差しを多用します。これはそれぞれ、1 尺と 3 寸の長さなので、用途に応じて使い分けます。

⑥ 竹べら 竹を手入れ、学生時に作製しました。それぞれのへらは、用途に応じて使い分けます。

⑦ 象牙べら 象牙の端材を購入し、自分で加工しました。

⑧ ピンセット Rubis というメーカーのものです。

⑨ 星付き 紙を切る時などに、目印の為の穴をあけるものです。

⑩ ステンレスヘラ 以前のバイト先で紹介されました。

⑪ テフロンヘラ 日本の webストアで購入しました。

⑫ メジャー 金属製と布製の 2 種類を所持しています。布製のは作品を採寸する際に用いることが多いです。

今回ご覧いただいたのは一部ですが、様々な経験や現場を経て、道具も充実されていることがよくわかります。

これらの道具と共に、更なる発展をお祈りしています！

人材活用による社会への貢献～国境なき医師団取材して

当機構は今年で創設 14 年を迎える。設立当初目指したことのひとつとして、危機に瀕している文化財を護るため、会員である文化財の保存修復専門家を現場に派遣するシステムを構築することになった。2011 年の東日本大震災以来、実際にそうした機会は増えている。しかしながら組織としてのサポート体制はまだ未整備で、理想的な人材活用方法を模索している状態だ。

そこで、今回被災地や紛争地への専門家派遣の先達として、全世界的に活躍している「国境なき医師団 (Médecins Sans Frontières: 以後 MSF と表記)」にインタビューを試み、課題解決の糸口を探った。

国境なき医師団日本 (日本では同団体は認定 NPO 法人※) 広報部の広報マネージャー 谷口博子様と、メディア担当マネージャーの館俊平様がご対応下さった。

MSF とは？

MSF は 1971 年にフランスで創設された緊急医療援助団体で、フランス人医師とジャーナリストが共同で活動を開始。その人道援助活動が世界的に認められ、1999 年にノーベル平和賞を受賞 2015 年 9 月現在、世界 28 カ国に事務局があり、そのうちの 1 つである MSF 日本は 1992 年に立ち上がる。今年で設立 23 年目の、国内でも有数の認定 NPO 法人*だ。創設当初から MSF の活動の柱になっているのが、『医療活動』と『証言活動』。MSF 日本の公式ホームページ (<http://www.msf.or.jp>) をご覧いただくと、医療活動が記されているだけでなく、現地の患者の声、活動地における医療の現狀的課題など、社会への提言を積極的に行っていることがお分かりいただけるだろう。



▶ 右から：谷口博子様 (MSF 日本広報部 広報マネージャー)
館 俊平様 (MSF 日本広報部 メディア担当マネージャー)

* 認定 NPO 法人とは：NPO 法人の内、一定の要件を満たし、国税庁から特に公益性が高いと認められた NPO 法人で、税制上の優遇措置が取られている。

活動実現への道筋

イ (インタビュアー)：まずは医師をはじめとするスタッフを派遣する MSF の活動の概要から伺いたいと思います。調査から活動決定、開始、終了までに、どのような工程を経るのでしょうか？

谷口：) まずは、経験豊富な医療スタッフとロジスティシャン (資材の調達・管理・調整などを担当) の 3 人程度で現地に入り、医療ニーズの有無を確認する現地調査を行います。他の団体が活動を開始しておらず、あるいはカバーしきれておらず、死亡率が高いなど、医療ニーズが甚大な場合は活動を決定します。決定後は、非医療従事者——特にロジスティシャン——が先に現地入りして施設や設備を整え、その後医療従事者が入って医療活動を開始します。私たちが活動を始める時は

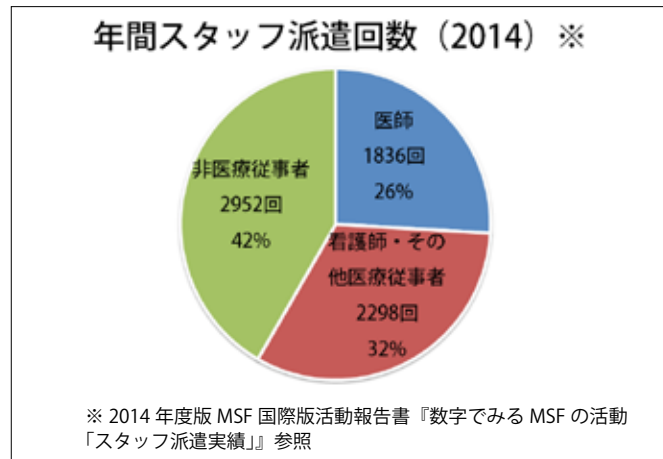
多くの場合、何も無いところから始まりますので、トイレを掘り、電気を通し、施設の建設等を経て、医療活動に入ります。

イ：) 赤十字団体や国連とは一線を画しているのでしょうか？

谷口：) MSF は、もともとどこからも独立した立場で活動しています。どことも所属連携はしていません。

イ：) どうしてでしょうか？

谷口：) 独立しているからこそ、現地の医療ニーズにのみ基づいて、他の団体がカバーしていない場所へ、自らが判断して入っていけるからです。政府や国連の判断は政治動向も反映され、各国の意向を無視できないですね。宗教も同様です。我々は患者さんを治療する際に、国籍や宗教を聞くことはありません。



イ：）では、当初の現地調査によって見出された医療ニーズがカバーできた、または状況が改善したら活動終了とし撤退されるのでしょうか？

谷口：）おっしゃる通りです。

イ：）他の団体が活動地に入っていて、その団体に引き継いだ場合も、活動終了として撤退されますか？

谷口：）そうですね。ベストはその国の機関によって医療ニーズが満たされることですが、他団体等に活動を引き継げることも、医療ニーズをカバーする意味においては有効です。

谷口：）東日本大震災の際には、被災地を回って、国や自治体、他の団体が当初医療活動に入っていなかった宮古市田老地区と南三陸町に入りました。しかし日本は緊急医療体制がよく整っており、弊団は3月～6月のみ活動し、その後は地元の病院や大学に活動を引き継ぎました。

館：）MSFは独立性や中立性を掲げていますが、国の政府や保健省当局を支援して協働することも重要です。その国の保健システムが医療ニーズをカバーできれば、それが良い事なので、現地スタッフのトレーニングをはじめとする当該地区の医療体制強化も活動として行っています。

MSFの活動地には医療従事者である医師、看護師、薬剤師などの他に、非医療従事者もいる。ロジスティシャンや現地での人事／財務業務を行うアドミニストレーターなどである。また、各活動地の責任者であるプログラム責任者、各国の責任者である活動責任者が存在する。下図はMSF世界全体の2014年度の年間スタッフ派遣回数だ。医師らの医療行為だけでなく、それに専念する為のサポートや環境整備の役割も非常に重要であることが読み取っていただけるだろう。

イ：）通常はご説明いただいたような工程を踏み、多くの職種のスタッフを派遣しているにもかかわらず、緊急事態発生時に何故迅速に対応できるのでしょうか？例えば東日本やネパールの大地震発生時、翌日には出発されていますよね。

谷口：）前述の工程を踏んでも48時間以内には調査チームが現地入りし、医療ニーズがあれば、例えば施設が破損した自然災害の被災地なら空気で膨らませるテント病院を使って一両日で活動を開始します。世界4ヶ所にあるロジスティック・センターには医療・救援物資が通関手続きを済ませた状態で保管され、すぐにも発送が可能です。東日本大震災の時は発生直後から、翌日現地入り可能なスタッフを、国内外の登録者に向けてメールや電話で募集しました。その間に、事務局の各部署が本来の業務内容を超えて情報収集や交通の手配を行い、その結果（震災発生の）3月11日夕方には派遣できる準備が整いました。ただ、上空の混雑のため実際に飛べたのは翌日午後でした。一方で、緊急援助団体と言いながら、長く医療がないために弊団が何十年も活動を続けている国・地域があります。2010年に大地震が起きたハイチでは国に基礎医療がないため、MSFは1991年から活動していました。その脆弱な国を震災が襲い、現在もお活動が続いています。このように、結果として毎年約60の国・地域で常時活動しています。

イ：）被災文化財の救援活動において言うと、救援対象は所有者（個人・団体）の財産に関わるものです。例えば文化庁の要請を受けて現場に急行出来たとしても、「何者が何をしに来た」と怪しまれ、受け入れ側の態勢を考慮する必要性を感じました。MSFでの活動上、その様なことはありませんか？

谷口：）もちろんあります。活動地は途上国が多く、現地の方々には世界の情報が入らないことも多くあります。我々のことをご存知なく、そんな人に突然「予防接種ですよ」といわれても不安ですよ。そこで、私たちが何者か、まずは説明してわかってもらうことが必須です。国や国際機関、他団体等の支援が届いていないことが、活動地選別のひとつの判断基準になりますが、現地に政府や地方行政が無い場合は、部族や勢力の長などの統治者に会ってまずは説明をします。我々が政治・宗教・人種に関わらず中立で、どこにも属していないことをわかってもらってから、一般市民の中にも入って説明をします。

活動資金について（ファンドレイジング）

緊急援助活動を行うにあたり、現地の理解を確実なものとする点は、われわれも常に意識すべき点のひとつだ。そして話題は MSF の資金や寄付についての内容に移った。

イ：）活動資金の殆どは寄付なのですか？

谷口：）一部、行政機関からの収入もありますが、世界全体の収入の約 90% は寄付によりまかなわれています。

イ：）先ほどの迅速な行動を可能にする要因として、資金援助元が自由な活動を容認しているのではないかと思います。例えば行政等の補助金等で活動する場合、それに使途制限が設けられますよね。

谷口：）MSF ネットワーク内でどの国・地域にどれだけの資金を使うか調整は必要ですが、どこかにお伺いを立てることはありません。我々は、公的資金は収入全体の 17% を上限としています。それ以上だと我々の

独立性が失われてしまうという考えに基づいています。なお、この数字は時代によって見直してきました。また、例えばシリア、アフガニスタンなど政治的文脈が複雑で難しい国・地域で活動する際は、公的資金は絶対に導入せず、民間からの寄付だけで行います。

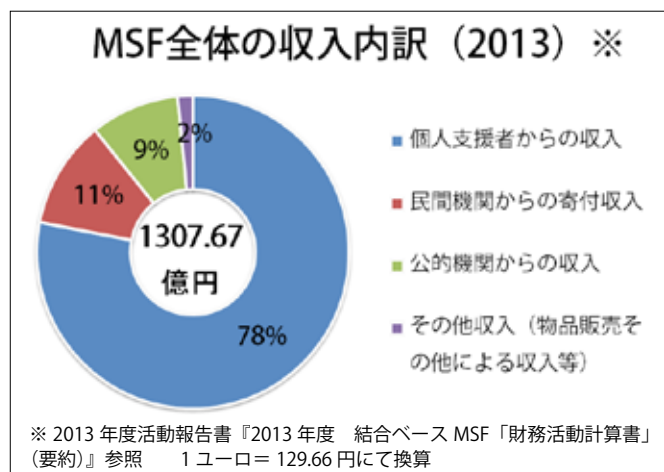
イ：）反対に、企業が寄付等の支援に入ると、彼らの意見や活動を無視できないという意味で、独立性は保てるのでしょうか？

谷口：）大前提として、弊団の独立性・中立性を理解してくださった方・組織がご支援くださっています。また一方で、お金をいただかない企業の業態を定めています。例えば製薬会社。発展途上国でも購入可能な薬価の設定や安価な医薬品を製造するための特許の解除など、こちらが働きかける立場にあるからです。加えて、命に関わるタバコ・酒造産業、軍事産業や反社会的勢力、紛争当事者からもいただきません。その他にも、利益のためだけに MSF を利用する姿勢が強く見られた企業は、寄付等をお断りすることもあります。

館：）なお、ご寄付などで支えて下さった企業名は、毎年発行する活動報告書に明記しています。

谷口：）東日本大震災の時には、薬などを寄贈したいとの申し出をいただきましたが、私たちはスタッフがどの国・地域で活動しても医療を安定して提供できるよう、一括購入で単価を抑えるために、薬や医療物資をまとめて調達し、世界 4 カ所のロジスティック・センターから搬送しています。そのため、ありがたく思いながらもご辞退させていただきました。

館：）薬を一括調達する際には、製薬会社に儲けを度外視した価格提示をお願いしています。価格が高すぎるのが理由で注射を打てない事態などあってはならないからです。一般で 10 ドル、国連では 1 ドルで購入可能な薬は非営利団体にも最低価格提供をすること、またアメリカで 10 ドル、アフリカでも 10 ドルだと物



価的に不公平ですので、儲けを度外視しての提供など、交渉しています。

谷口：）企業によっては、技術提供をして下さることもあり、これは金銭の寄付にも負けない価値があります。例えば、法律事務所の方が我々の契約書が無償でチェックして下さいこともあります。海外の事務局では、一般の方々が国内ボランティアとして活動を支援くださる例もあります。今後は様々な形で我々の活動に関わっていただけることを伝えていこうと話合っています。

イ：）寄付の話で言うと、MSF の公式サイトはとても勉強になりました。例えば、寄付をする場所がわかりやすい、寄付の支払い方法には現金に加えてクレジット決済やマイルの寄付も可能、また寄付をした後に現地にどのように資金が流れていくかのプロセスまで説明されている。その資金を使用する先の活動内容の説明も理解しやすかったです。

MSF の海外派遣スタッフ（フィールド人事）

多くの支持を得ている MSF の活動。やはり人材は集まるのだろうか。現地に派遣される為には、MSF が実施する登録審査をパスしなければならない。何度もチャレンジして派遣を希望する人も少なくないようだ。しかし、人材に余剰はあるのか？という問いに、「いいえ、もっと応募して頂きたいです」と、谷口さんは苦笑した。

谷口：）日本人は職業のスキルが高く、ある程度社会人経験があれば、技術の面でパスしないことはあまりありません。ただ、MSF は英語かフランス語が共有言語なため、業務遂行可能な語学レベルが求められます。あと 3 ヶ月トレーニングを重ねてから再度挑戦して下さいとアドバイスさせていただく場合もあります。また、日本ではたとえば一人の医師に複数のサポートが付く場合が少なくないですが、現地では基本、一職種一人で動ける必要があります。そして、コミュニケーション能力。現地では日本のやり方を主張しても仕方ありません。人事担当は面接で、様々な角度からそのことについて伺います。

イ：）参加希望される人は、やはり後を絶たないのですか？

谷口：）いいえ、もっと応募して頂きたいです。現地はローテーションで回っていますので、一人派遣してその方にずっとお願いする訳ではありません。また、登録者の中でも、現地が求める職種の方がその時期に派遣参加が可能とは限りません。ですので、各種スキルをお持ちの方のプールがより大きい方が、柔軟に活動ができます。

イ：）現地への派遣スタッフは定職ではないという理解を登録者から得る必要がある一方で、必要な時期に

求める人材がない、という悩みがあると推測しますが、MSF ではどのように人材の選定をされ、ローテーションを組んでいるのですか？

谷口：）そこは事務局がずっと検討しているポイントです。終身雇用が崩れたとはいえ、日本はやはり一つの職場でしっかり長く働くということが良いとされる傾向にあります。ただ、勤務する会社に籍を置きながら、3 ヶ月・半年・1 年と現地にいけるという方は殆どいません。一方、たとえば欧州では長期休暇が 1 ヶ月ほどあります。またキャリアアップの為に、むしろ率先して組織を動いていく面もあります。それと比較すると日本では、MSF の活動に参加される方は相当の覚悟を持たれています。職場やご家族と話し合いを重ねて入ってこられる方は多いです。

一部、外科医は紛争地で 1 ヶ月間、日に 10 件程も手術をする勤務環境もあるので、3 週間から 1 ヶ月の早いローテーションをまわすこともあります。そのような場合は、職場に理解があれば休職して参加される方もいます。しかし他の職種はほぼ前職を辞めて参加してくださっています。MSF でのキャリアアップという選択肢もあり、個々人が人道援助活動を自分の中でどう位置付けられるかにもよります。日本では 3 ヶ月以上の派遣で「行っておいで」と復職を前提に送り出される方はごく少数です。それは、医療スタッフだけではなく、ロジスティシャンなど非医療の方も変わりません。

イ：）ちなみにスタッフは事前にトレーニングされるのですか？

谷口：）海外派遣スタッフは基本、現地に入ったらずぐに活動を始めてもらうので、事前のトレーニングなどはありません。ただ、ロジスティシャンは設備や機材に慣れるため、事前にロジスティック・センターでトレーニングを行う場合があります。また、エボラ出血熱対応では特殊な活動フローを学んでいただく必要があります。防護服の着脱法などの研修を受けてから現場に入っていました。

広報の役割（コミュニケーション）

派遣希望につながるよう、MSF はフィールド人事部主導で月 1 ～ 2 回ペースで、MSF の活動経験者を交えての説明会を全国で行い、オンライン説明会も実施しているそう。ところで、MSF の各事務局には、大きく分けて 3 つ部署があり、資金調達のための「ファンドレイジング」、海外派遣スタッフの採用・派遣とフォローアップを行う「フィールド人事」、そして谷口さん、舘さんが所属される「広報（コミュニケーション）」がある。そして、先述の通り、医療と証言活動を 2 本柱とする

MSFにとって、広報はまさに活動を支える“後方”支援であると、お二人は言う。

イ：）広報部のお仕事の内容について伺えますか？

谷口：）医療と証言活動はMSFの2本柱です。現地の患者さんは自ら発信する声を持っていない場合が殆どです。現在では他の医療団体でも同様の活動を行っている例が見られますが、MSFにとってこの証言活動は団体創設の原点でもあります。広報部（コミュニケーション部）という部署が世界28事務局にあり、世界規模でこのような証言活動を行っている点は、MSFの特徴と言えると思います。

我々はまさに「広報（後方）支援」なんです。現場の活動を動かすためには、一般的に言われる「ヒト・モノ・カネ」があり、ヒトがフィールド人事、モノ・カネをファンドレイジングが担う。そして我々広報部は、冒頭にお伝えした活動の2本柱の一つである、証言活動を担当しています。まずは知っていただかないと命の危機は顧みられず、社会も解決に向けて動き出しません。MSF自身が活動するためにも知っていただかなければ、活動参加希望者は集まらず、資金もいただくことができません。その意味では、他の2つの機能のベース作りでもあります。

イ：）具体的にはどのような広報活動をされているのでしょうか？

谷口：）MSFは毎年日本の皆様にアンケートをとり、MSFの認知・理解を確認しています。8年前の結果では、MSFの名前を知っている方は多数いらっしゃったのですが、活動内容までご存知の方はその20～30%に留まっていました。しかし当時は組織も体力がなく、本格的にMSFの活動背景や内容を知ってもらおうと動き出したのは、実はここ4年ぐらいのことです。そこには大きく二つの強化があります。1つ目は、オンライン・コミュニケーションの活発化です。東日本大震災の前はSNSを使用していませんでした。なぜなら我々の活動への理解がまだ安定しておらず、ご意見や批判を多くいただいても我々がきちんと対応できないと考えていました。しかし現在ではFacebookのフォロワーさんが18万人を越え、批判や疑問が上がるとフォロワーさん同士が意見交換してくださる等、成熟しています。東日本大震災で医療活動を開始したのは、活動へのご理解の必要性が増す中、始める時期はまさに今だと感じたからです。それまでも行っていましたが、ニュースのアップデートに加えて、心に届くことを目指したオンラインでの証言活動が、この時を境に加速し始めました。

そして、2つ目は朝日新聞に2012年にスタートした紙媒体の「Frontline」です。こちらはMSFが何者かを知っていただく為に、基本理念や活動背景・課題を掲載し

たツールです。テーマを1年で4つから6つ挙げて記事にしました。例えば、1号目はなぜ証言活動するのかがテーマでした。その他には、緊急医療援助をどのように実現するのか、誰が働いているのかなどを取り上げました。オンラインは日々の現地を証言する一方で、こちらはその背景や活動基盤をお伝えしています。

館：）我々が広報をするのは、寄付そのもののためでも団体のプロモーションのためでもなく、二本柱の一つの「証言活動」を目的としています。そこを明確に分けているのも、団体を運営する為には非常に大切な点だと考えています。

谷口：）先程の話に関連しますが、近年ご理解の向上に注力した結果、その点が以前より改善した調査結果が出ています。最近ではどのように関われるか？という問合せが増加し、現在はその点をお伝えすることに注力しています。

活動への覚悟—独立・中立・公平・非武装

緊急対応時に利用される緊急医療キットはMSFが考案し、今や世界中の緊急医療の現場の標準になっているという。緊急医療援助を実行する為の、組織のサポート体制が洗練されている証拠の一つと感じた。インタビューを通して、多様な職種の採用・派遣、寄付を軸とした資金調達、広報等、MSFの丁寧な後方支援体制を少しだけ垣間見られた。そして同時に、独立した「人道援助」の名のもとに医療・証言活動を行うMSFの覚悟も学ぶことになった。その姿勢を貫く一面を紹介して、インタビューの結びとしたい。

イ：）話は戻るのですが、先程おっしゃられたように30年同じ国で活動されるのであれば、その国や政府相手に、独立性を保つのは難しいのではないかと想像するのですが、いかがですか？

谷口：）活動開始時や、また継続時だとしても、現地の統治者等とコミュニケーションをとり、自分たちが活動においても資金的にも独立・中立の組織であることをわかってもらいます。一つの勢力や部族のみならず、もし争い合っている部族が10あるなら、10部族全てに説明をします。

イ：）初めて現地に入るときは、襲撃される可能性はゼロではないと思うのですが、その時は護衛などをつけるのですか？

谷口：）ないです。私達はあらゆる武力を放棄しています。武器を持てば敵を作りますよね。

館：）前提として、現地調査や交渉時に活動可能な安全な場所であることを確認してから活動を開始します。いずれにしても武装警護はしないポリシーがあります。

谷口) 活動地にも門番兼警備員はいますが、彼らも丸腰です。

イ:) 信頼関係の構築とはいえ、相当な覚悟ですね。敬服します。最初に安全だと判断しても、情勢が変わる可能性は否定できませんよね。

谷口:) だから、MSF 独自の安全基準を設けています。一時的に状況が緊迫化した時は一時退避しますし、それで収まらないなら活動休止、最悪の場合まだ患者さんがいても撤退です。ソマリアがそうでした。その代わりに私たちは声を大にして証言します。患者さんがいても撤退しなければいけない状態を、皆さんに知って下さいとお伝えします。

(インタビュー日時: 2015 年 6 月)

取材を終えて

MSF が理念として掲げる「独立・中立・公平の原則とボランティア精神に深く基づく人道援助活動」は、文字で書くのは簡単だが、実行するのは並大抵のことではない。特に緊急かつ危険な現場に自ら赴き、何も無い現場に電気を引き、建物を建てる……。しかも丸腰で、異なる部族や勢力すべてに MSF の立場を説明し、人種・宗教・信条・政治に関わりなく医療を施すという行為は、想像を超えた勇気が要るものと思う。力で紛争を解決していこうとする世界の指導者には、是非見習ってほしいポリシーである。

人間社会には欠かせないものがいくつかある。衣食住に関わる産業活動、現代社会の基盤でもある政治経済活動、医療や文化財保存など万人のより良き未来のためにある教育・科学・文化活動である。どのような分野でも、人間の尊厳を守り、平和な世の中を築きたいという普遍的な目的に基づいている。しかし現在、社会の趨勢はこれらの願いに逆行するような事象が頻繁に起きている。

MSF は 1999 年にノーベル平和賞を受賞した。独立・中立・公平の原則と長年の人道援助活動、活動を通して目にした非人道的な状況を伝える証言活動が評価されたものだ。

分野は違えども、JCP も文化財の保存修復を通じて人類の歴史、文化を将来に継承し、人間の尊厳を守る一助になりたいという思いに変わりはない。インタビューを終えて、これからもさまざまな組織と共に、平和で豊かな社会の構築に貢献していく思いを新たにした。

今回お忙しい中インタビューを受けてくださいました MSF 日本・広報部の谷口博子様、館俊平様に、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

これからのご活躍を心よりお祈りしております。

(インタビュアー: 小田桃子、八木三香、米澤麻由子)



国境なき医師団日本概要

名 称 | 認定特定非営利活動法人

国境なき医師団日本 (認定 NPO 法人)

会 長 | 加藤寛幸 (医師)

事務局長 | ジェレミィ・ボダン

所在地 | 〒162-0045

東京都新宿区馬場下町 1-1 早稻田 SIA ビル 3 階

寄付の申し込み、資料請求は 0120-999-199

参 考 |

公式サイト: <http://www.msf.or.jp/>

『Frontline』*

<http://www.msf.or.jp/library/publication/frontline.html>

『2014 年度版 MSF 日本 活動報告書』*

<http://www.msf.or.jp/library/annualreport/>

『2014 年度版 MSF 国際版活動報告書』*

<http://www.msf.or.jp/library/annualreport/>

(*公式サイトで Web 版がご確認いただけます)

東日本大震災 被災地を歩く

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災から、4 年の歳月が経過しました。近年各地で自然災害が頻発していますが、東北のことを私達は少しずつ忘れ始めてはいないでしょうか？

平成 27 年 5 月 30 日、三陸地方の被災地を訪れる機会がありました。車で一気に宮古市の田老地区に上り、その後山田、大槌と南下し、最後は世界遺産登録にノミネートされた橋野の高炉跡を見学し、盛岡へ戻りました。

陸前高田より北を訪れたのは初めてでしたが、現地はまだまだ復興の途上です。“ 知ること ” “ 忘れないこと ” “ 伝えること ” が大切な支援であると、改めて感じました。

田老の防潮堤 たびたび津波に襲われてきたこの地区が 1934 年から建築を始め、改良を加えて 1978 年に完成した巨大な防潮堤だったが、3.11 の大津波にはひとたまりもなく壊滅した。手前左は水門。奥に見えるのは「たろう観光ホテル」。



たろう観光ホテル

1～2 階部分がすっぽりと津波でさらわれている。震災遺構として保存が決定している。

津波に襲われた鯨と海の科学館

建物の高さ3分の1程度まで浸水したが、シンボルだったマッコウクジラの骨格標本は辛うじて難を免れた。現在再開に向け準備中。(山田町)

津波到達地点の
マークがある



井上ひさしの作品に「ひょっこりひょうたん島」として登場し、有名になった大槌町の蓬莱島。折りしも山勢が発生して幻想的な雰囲気に包まれた。



被災当時のままの大槌町役場。この場所で町長を含む40名の方が犠牲となった。ぽっかりと空いた窓から、無念の想いが伝わってくる。



橋野鉄鉱山、高炉跡

幕末に大砲製造のため良質の銑鉄が必要となり、盛岡藩士大島高任によって建造された洋式の高炉跡。5月の時点ではまだ決定していなかったが、その後他の近代産業遺産と共に、ユネスコの世界遺産として登録された。

平成 27 年度文化財保存修復専門家養成実践セミナー

平成 27 年度も文化財保存修復専門家養成実践セミナーを継続して開催することができました。セミナーレベル 1 の総受講者数は、今年度で 260 名に上ります。今期修了証書授与者は 3 名、通算 89 名がこのセミナーで修了証書を手にしたことになります。今後とも更に進化したプログラムを模索したいと思っております。

講師の皆様、ご後援いただきました皆様、ご協力いただきました施設関係の各位に心より感謝申し上げますと共に、今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

セミナーの様子は JCP ブログにてお伝えしております (<http://ameblo.jp/jcpnp0>)。また、陸前高田学校のフォトギャラリーをセミナー専用 HP にて公開しています (<http://npojcp.wix.com/seminar2015>)。どうぞご覧ください。

文化財保存修復専門家養成実践セミナーレベル 1

会 期: 8 月 29 日—9 月 8 日 (9 月 3 日を除く全 10 日間)

会 場: 黒田記念館 (東京都台東区)

参加者数: 18 名

陸前高田学校 (文化財保存修復専門家養成実践セミナー Lv.2 / 文化財危機管理セミナー)

会 期: 7 月 27 日—8 月 2 日 (全 7 日間)

参加者数: 8 名



セミナーレベル 1 の講義風景 (神庭信幸先生による『光放射』)



セミナーレベル 1 の講義風景 (大河原典子先生による『模写』)



陸前高田学校の集合写真 (陸前高田市立博物館にて)



陸前高田学校でカッコ船を洗浄

九州長崎世界遺産スタディツアー（仮称）決定！！

次なるスタディツアーは、世界文化遺産に登録された「軍艦島」こと「端島」、そして「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」巡りをメインとした「九州長崎世界遺産スタディツアー（仮称）」です。日程は、来年3月中旬頃、3泊4日または4泊5日を予定しています。

スケジュール等の詳細につきましては、決定次第、ホームページ、チラシ等でご案内いたします。

ご期待下さい！



長崎・軍艦島

編集
後記

小田桃子❖インターンとして2つのインタビューに携わりました。想定した内容と当日出るそれ以外の内容から、相手の専門性を引き出し、皆様へ伝える事は難しい事でしたが、その様なコーディネイトの重要性を知る機会を得ました。貴重な経験をいただいております。ありがとうございました。

米澤麻由子❖日本財団による「これも学習マンガだ！～世界発見プロジェクト～」で100作品が発表されました（詳しくは gakushumanga.jp）。源氏物語を描いた『あさきゆめみし』（大和和紀）、ジブリの『風の谷のナウシカ』（宮崎駿）、手塚治虫作品からは『火の鳥』『ブラック・ジャック』『アドルフに告ぐ』が選ばれています。文化財関係ですと、『ギャラリーフェイク』（細野不二彦）も。新旧、ジャンルともバランスよく選出されていますが、古代エジプトの世界を描いた『王家の紋章』（細川智栄子あんど英～みん）がなかったことが残念でした。。最近ですと、折口信夫の原作を漫画化した近藤ようこの『死者の書』。平城京の頃、古代の土と匂いとしっとりとした風を感じます。

八木三香❖今回若いスタッフの力を借りて、紙面を完成させることができました。MSFへの取材は、以前から「できればいいなあ」程度に考えていたのですが、若い行動力に引っ張られて実現しました。また、今号より紙面を一新。これもソフト使いが巧みなスタッフの力です。正に人材は宝。

そんな折、アフガニスタンの病院が米軍の誤爆を受け、MSFのスタッフも多数亡くなったというニュースが飛び込んできました（10月3日）。戦争はどれだけ貴重ないのちを奪ったら気が済むのでしょうか？心より哀悼の意を表します。我々は先人が育み、遺したものを将来に伝えることをミッションとしていますが、そもそも人間のいのちがなければ「もの」は産み出せないのです。

今回は関西支部の活動をご紹介できませんでしたが、次号では是非ご報告したいと思います。また会員の皆さまのお仕事、文化財関連のイベントなど、積極的に紹介していきたいと思っています。NLの紙面づくりにご協力いただける方は、是非事務局までお知らせ下さい。（TEL：03-3821-3264 / FAX：03-3821-3265
E-Mail： jimukyoku@jcpnpo.org）

謝
辞

今回取材に応じて下さいました「国境なき医師団」広報部の皆さまに、改めまして御礼申し上げます。また、「JCPの人材養成」第1弾に、無理なお願いをして登場して頂いた中村春佳さん、ご協力本当にありがとうございました。新入社員である中村さんの取材を鷹揚にご承諾下さった(株)修護の皆さまにも、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

さらに、三陸地方の取材は、岩手日報社論説委員黒田大介様にご大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

ご入会ありがとうございました。

(平成 27 年 10 月 1 日現在入会者数)

- 理 事 8 名
- 維持会員 16 名 (役員、評議員含む)
- 登録会員 174 名
- 一般会員 115 名
- 学生会員 68 名
- 監 事 1 名
- 評 議 員 1 名
- 賛助会員 29 件

株式会社 宇佐美松鶴堂
 株式会社 宇佐美修徳堂
 株式会社 岡墨光堂
 株式会社 桂文化財修理工房
 有限会社 紙資料修復工房
 財団法人 元興寺文化財研究所
 京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センター
 国富株式会社 長崎営業所
 株式会社 芸匠
 株式会社 光影堂
 有限責任中間法人 国宝修理装こう師連盟
 修理工房 宰匠株式会社
 株式会社 坂田墨珠堂
 株式会社 松鶴堂
 株式会社 修美
 株式会社 修護
 宗教法人 正法院
 中部資材株式会社
 株式会社 東都文化財保存研究所
 日本通運株式会社 美術品事業部
 株式会社 半田九清堂
 長谷川 聡
 百元 節
 株式会社 フレンドトラベル
 株式会社 文化財保存
 山領絵画修復工房
 他 個人 3 名 (アイウエオ順)

NPO JCP の活動に 参加してみませんか？

- 登録会員：年会費 7,000 円
文化財保存に関わる専門的スキルを持ち、プロジェクト遂行に協力する個人。
登録会員は文化財の保存事業を行うための専門家で、文化財に直接関わる専門家とは限りません。
- 一般会員：年会費 5,000 円
この法人の目的に賛同し、支援する団体、個人。
- 学生会員：年会費 3,000 円
大学または大学院に相当もしくは準じる教育機関の学籍を持ち、この法人の目的に賛同して入会する個人。
- 会員特典：季刊情報誌の送付
講演会／研修会等への優先参加

※入会ご希望の方は、ファックス、電話、メールにて申込用紙をご請求ください。折り返し資料をお送りいたします。また、ホームページからでも入会申込ができます。
 TEL：03-3821-3264 / FAX：03-3821-3265
 E-mail：jimukyoku@jcpnpo.org / URL：www.jcpnpo.org

※現在 JCP では、東日本大震災、常総市水害その他の被災文化財救援募金を受け付けております。ご連絡頂ければ、振込料無料の振込用紙をお送りいたします。
 皆様の暖かいご支援を、どうぞよろしくお願い申し上げます。
 ※この他にも、随時寄附を受け付けております。
 下記の郵便振替、あるいは銀行口座をご利用ください。

- ・郵便振替 00120-4-10545
NPOJCP
- ・三菱東京 UFJ 銀行 四谷三丁目支店
普通預金 3960340
特定非営利活動法人 文化財保存支援機構
理事 三輪嘉六
- ・みずほ銀行 根津支店
普通預金 1727893
特定非営利活動法人 文化財保存支援機構

NPO JCP NEWS vol.30

2015 年 11 月 1 日発行



特定非営利活動法人
文化財保存支援機構

〒110-0008
 台東区池之端 4-14-8 ビューハイツ池之端 102 号
 TEL：03-3821-3264 FAX：03-3821-3265
 E-mail：jimukyoku@jcpnpo.org
 URL：www.jcpnpo.org
 関西支部
 京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センター内
 TEL：075-791-8519

〈理 事〉

三輪 嘉六 (理事長)
 大林 賢太郎 (副理事長)
 西浦 忠輝 (副理事長)
 沢田 正昭
 本田 光子
 増澤 文武
 増田 勝彦
 三浦 定俊

〈評議員〉

田邊 三郎助

〈本部事務局〉

八木 三香 (事務局長)
 松本 洋子

〈関西支部事務局〉

伊達 仁美 (事務局長)